

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577500113		
法人名	社会福祉法人 佐波福祉会		
事業所名	グループホーム かじかの里		
所在地	山口市徳地八坂1330番地		
自己評価作成日	平成26年7月29日	評価結果市町受理日	平成26年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成26年8月29日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○利用者様が住み慣れた地域で家庭的なぬくもりのある環境を提供し元気に生活が継続できるよう支援します。</p> <p>○日常生活の中で率直な要望が聞き出せるような関わりを持つよう努めます。</p> <p>○新しい取り組みとしてかじかの里たよりは勿論の事家族との手紙のやりとりをすることで疎遠になることを防ぎます。</p> <p>○利用者様、家族様の意向を尊重したその人らしい個人介護計画を作成、介護の質を高めます。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の好みを聞かれたり、食事のリクエストを直接書いてもらわれたりして、法人の管理栄養士から定期的に栄養バランスチェックを受けられて献立を立てておられ、旬の野菜や新鮮な食材を使って三食とも事業所で利用者と一緒に食事づくりをしておられます。利用者と職員は同じテーブルを囲み、会話を楽しまれながら、食事をしておられます。職員の意見から、家族と利用者が疎遠にならないように「手紙のやりとり」への支援や利用者を担当する職員から、利用者の暮らしの様子を知らせるメッセージを家族へ送られる他、「ふるさと訪問」として、自宅付近や昔住んでおられたところへ出かけるなど、馴染みの人や馴染みの場所との関係が途切れないように支援に取り組んでおられます。管理者と職員は常に理念を共有して、急がせない、せかさない、一緒にゆっくりとした支援に取り組んでおられます。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミニカンファレンス、各会議の始まりにはかじかの理念を唱和している。その理念を共有している。急がない、せかさない、一緒にゆっくりとした支援に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念「和と安らぎのある生活を支援します」を介護目標やサービスの特徴(急がない、せかさない、一緒にゆっくり)と一緒に事業所内に掲示し、毎日のミニカンファレンスや月1回の職員会議で唱和して共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地区のイベントは勿論の事、夏祭り、故郷訪問、ゆる体操、おいしいおかゆの会に参加、利用者顔見知りのボランティアが定期的に来苑している。	地域の小学校や保育園の運動会に利用者が参加し、競技にも出場している。法人の夏祭りには地域の人が大人から子どもまでたくさんの人が参加し、利用者も参加して交流している。定期的に訪問するボランティア(朗読の会、童謡、ゆる体操、竹伐り)の人と交流し、近隣の人とは、散歩時に挨拶を交わし、旬の野菜やもち米などの差し入れがあるなど日常的に交流している。法人の広報誌「とくじ苑だより」に事業所を紹介し年4回、各自治会に140部配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3か月に一度の広報誌、「とくじ苑だより」で地域に発信している。地域の皆様の役に立てる様取り組んでいる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各職員が自己評価表を記入し全員が把握している。評価を振り返り具体的な今後の改善策を検討している。	管理者は評価の意義や項目の考え方を説明し、自己評価をするための書類を職員全員に配布して記入してもらい、職員会議等で話し合いまとめている。職員は自己評価を通して、ケアの振り返りや見直しに取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて、内部研修の中で応急手当や初期対応の訓練に取り組むなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の忌憚のないご意見を聞き、改善、実行につなげている。よりよい運営を行うために全職員が周知する。	2か月に1回開催し、運営状況や行事予定、ヒヤリハット・事故報告、職員の研修報告、外部評価結果等の報告をして、意見交換をしている。法人施設内に風水災害時の避難場所を建設し、災害時以外にも地域の人が活用できるように取り組んでいる。運営推進会議議事録は閲覧できるようにしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課とは更新申請のアドバイスを受けている。地域包括支援センターとは利用者に関わるサービスの向上に関わる相談をしている。法人としての連携もしている。	市担当課とは運営推進会議時の他、電話や直接出向くなどして利用状況や申請手続きについての報告や相談を行い、助言をもらうなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時や電話で情報交換や困難事例の相談を行うなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束に対して行ってはいけないことを理解している。スピーチロックも同様。玄関などから外出を察知した場合は一緒に出掛けるとともに法人全体で見守りをしている。	マニュアルや外部研修を受講した職員による復命報告を通して職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。玄関には施錠をしないで外出を察知した場合は、一緒に出かけたり、気分転換を図るなどの工夫をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が気がついた時には指導をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法の主旨を尊重、日常的にやさしいいたわりの気持ちで介護する様喚起している。外出から帰り家族からの虐待がなかったか観察している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修により受講した項目について復命して必要性を関係者と話し合い、役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が時間を掛けていねいに行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に第三者苦情受付窓口の件を説明している。家族には常日頃から意見や要望を聞き運営に反映させている。	重要事項説明書の中に苦情相談窓口や第三者委員を明示し、契約時に家族に説明をしている。家族には運営推進会議時や面会時、行事参加時、電話等で直接聞いている他、年1回「家族アンケート」を実施している。個別ケアへの相談、要望については職員で話し合い、日々のケアに反映している他、小遣いの残高の確認方法については、コピーを渡すことにするなど運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員からの意見や提案を聞く他伝達簿を活用して意見を反映させている。	管理者は職員会議や毎日のミニカンファレンスで職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、各担当(与薬、レクリエーション、献立、研修、広報等)から業務の中で意見を聞くようにしている。年2回は職員アンケートを実施している他、「伝達簿」に意見や気づきを記録するようにしている。家族と利用者が疎遠にならないように「手紙のやりとり」への支援や玄関に利用者の生き活きとした表情の写真の掲示などの意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に目標管理制度による能力開発カードを作成させ年4回の面談を行って、向上心等を育成し、要望等を聴取している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量は勿論のこと勤務年数を考慮して外部研修の機会を設けて内部で復伝をしている。母体施設の研修にも参加している。	外部研修は情報を職員に伝え、本人の希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命書を提出し内部研修において報告し、全職員で共有している。内部研修は研修係を設けて年4回(感染予防、緊急時の対応等)実施している。介護サービス提供事業者連絡協議会の部会研修に参加して交流し学習している。職員は、日々のケア場面を通して管理者の指導を受けて働きながら学んでいる。	・内部研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口市介護サービス提供事業者連絡協議会の部会や研修に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族からの聞き取りで要望を聞きアセスメントしている。担当していたケアマネからの情報も入手している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や行事への家族の参加などの機会をとらえて相談や電話でも傾聴して信頼を得るよう対応している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所待ちでの家族の負担軽減のため、他の施設や在宅サービスの説明もしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑や調理、野菜の下ごしらえ、裁縫など一緒に行い昔とったきねずかを尊重して関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の考えを推し進めず本人、家族からの意見を尊重して笑顔で過ごせるような関係を築く。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援ハウス、デイサービス、面会、家族との墓参りやなじみの美容院、一時帰宅、手紙、電話の支援等行っている。	近所の人や趣味仲間、職場の同僚、親戚の人の来訪や家族の面会がある他、手紙や電話での交流を支援している。同一敷地内にある法人施設を利用している近所の人や友人に会いに行ったり、面会に来てもらっている。馴染みの美容院の利用や「ふるさと訪問」として自宅付近や昔住んでいた場所にドライブをしている他、家族の協力を得て、自宅への一時帰宅や墓参り、馴染みの店での外出に出かけるなど、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く出来る様配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同施設内に異動されても個人情報の保護を行いながら対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人生活史や毎月待つのモニタリングや日々の関わりのなかで記録して職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。	入居時には個人生活史記録表やセンター方式のシート(私の姿と気持ちシート)を活用して本人や家族の望んでいることや期待すること、好きなもの、きれいなもの、特技などを記録し、入居後は利用者の食べたい物リクエストをポストイットを使って把握し、日々のケアを通しての利用者の言動や表情をくみ取り記録している。思いや暮らし方の希望、意向をまとめた本人本位の「私の自己紹介」シートを作成して職員間で話し合い、共有して支援に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の自己紹介」シートを職員が共有している。新入居者は作成の準備をしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表に基づき毎日のサービス記録を作成している。小さな発見も見逃さず大切に全職員が共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制でアセスメントを行い月1回のサービス担当者会議で本人の思いや家族の意向を反映させて介護計画を作成している。	利用者を担当する職員が聞いた本人や家族の思いや意向、主治医、看護師の意見などを参考にして、月1回のケアカンファレンス時に系あく作成担当者を中心にして職員全員で話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、短期は3か月、長期は6か月毎に見直しをしている。状態や要望に変化があればその都度見直し現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア会議で職員の意見を集約して評価、考察している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自費レンタルベッドの導入や訪問看護の派遣などを本人、家族と相談しながら行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、民生委員、社会福祉協議会の貸出制度を利用している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医となっている。受診結果などの情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。月1回の定期受診は家族と事業所が一緒に受診支援を行い、他科受診(歯科、眼科)は事業所が支援している。協力医療機関には緊急時や夜間対応の協力を得ている。家族とは電話を通して状況報告を行い、情報を共有して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体施設の看護師と連携を図っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している病院と連絡を取り情報を収集している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応を説明している。法人関連施設と連携、支援している。	重度化した場合の対応について契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族やかかりつけ医、関係者と話し合い、法人関連施設や医療機関への移設も含めて方針を共有して、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告所を基に改善、対応策を検討している。外部の研修を受けた職員が複伝をかねて内部研修としている。	ヒヤリハット、事故報告書に発生状況と改善策を記録し、全職員に回覧し、周知した後、月1回の職員会議で再度全職員で利用者個々への関わり方を話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で緊急時の対応について取り組んでいるが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるまでには至っていない。	・すべての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人のマニュアルを作成して法人全体で実施している。	消防署の協力を得て年2回、昼夜の火災や風水害を想定した避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、通報訓練を法人全体で実施している。地域からは消防団員の参加があり、利用者は職員と一緒に参加している。法人では防災マニュアルを作成し、実践訓練と共に、佐波川の氾濫に備えて避難所を建設しているなど、地域と連携して災害発生に備えて各種の整備に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを基に介護目標に掲げて利用者の心を傷つけない言葉使いをしている。なおプライバシーには配慮を怠らないようにしている。	マニュアルや接遇研修受講者の復命報告を通して職員は理解しており、「人生の先輩として、尊厳を大切にすること」を念頭において、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人記録は保管して取り扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を傾聴するように心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護理念の「思いと願いを聞かせていただきます」のように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に行く人あり職員がカットすることもあり、本人の体調も考慮しながらおしゃれをしていただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食共食事づくりを行っている。2ヶ月に一度は施設内でランチバイキングを提供して好評である。もちろん利用者も一緒に行っている。	利用者の好みやリクエストを聞いて献立を立て、差し入れ(地域の人や職員からの)の旬の野菜等、新鮮な食材を使って三食とも事業所で食事づくりをしている。定期的に管理栄養士に栄養バランスのチェックを受けている。利用者は買物、野菜の下ごしらえ(皮をむく、筋をとる)、盛り付け、配膳、台拭き、茶を汲む、下膳などを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をとっている。おやつづくり(ホットケーキ、おはぎ、柏餅、蒸しパン)、年4回のランチバイキングや竹を使ってのソーメン流し、ウッドデッキを利用したの戸外食、寿司、赤飯での誕生日食、外食など食事が楽しみなものになるように工夫し支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂食表に記入している。水分摂取は自前コップにて把握している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。義歯は週1回消毒洗浄している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握している。便秘の場合は意思と相談してスムーズな排泄を心がけている。	ケアチェック表に排泄状況を記録し、排泄パターンを把握して羞恥心や不安に配慮した言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の献立に繊維質の多い野菜を取り入れている。水分の摂取も声かけで飲んでいただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回～3回の入浴と毎日の下清拭を行っている。	入浴は毎日14時から16時までの間可能で、利用者の希望や状態に応じて入浴できるように支援している。個浴で好みに応じて入浴剤を入れるなどくつろいだ気分で入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで時間や人を代えて対応している。地域からの差し入れの柚子や菖蒲を使って季節感のある入浴となるように支援している。利用者の状態に合わせて、清拭、足浴、シャワー浴等、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の要望で証明の調整をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルをもとに配薬ができるようにケースを設置、職員が管理している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや日常生活作業や利用者1人1人にあった活躍のできる場面を多くつくり張り合いがもてるように支援している。	雑誌、新聞、月間雑誌を読み、テレビ、DVD(アニメ、演歌)の視聴、写経、貼り絵、塗り絵、歌を歌う、カラオケ、ラジオ体操、ゆる体操、指体操、タオル体操、誤嚥防止体操、じゃんけん、風船バレー、卓上ボーリング、卓上卓球、脳トレ(計算ドリル)、おかずづくりゲーム、ビンゴゲーム、カレンダーづくり、額縁づくり(活動写真入れ)、裁縫、新聞折、広告でゴミ箱づくり、牛乳パックで椅子づくり、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、生花を活ける、グッピーの飼育、畑仕事、食事の準備、下膳、おやつ作りなど楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2ヶ月ごとにバスで苑外に出ている。なおボランティアにも来ていただいている。苑内では晴天であれば散歩も支援している。	周辺や苑内の散歩、買物、小学校や保育園の運動会に参加、季節の花見(桜、藤、紫陽花)、あさむら苺園、地域内初詣(3社参り)、バス旅行(山口市瑠璃光寺、一貫野)等、外出援助ボランティアの協力を得て外出している。家族の協力を得て外出、外食、墓参、自宅への一時帰宅など戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいを預かっている。必要なものを頼まれたら買い物している。出納簿を作成している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向を職員が聞き援助している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内外ともに季節を感じていただくよう、設えには配慮している。	玄関を入ると正面に利用者職員個々の楽しそうな表情の写真が飾ってある。食堂兼リビングは外庭に面し、広く、大きな窓から見える山や田畑から季節を感じることができる。室内には自然の光が差し込んで明るく、高い天井のむき出しの垂木にぬくもりを感じ、台所は出入り口が広く、利用者が活動しやすくていい。室内には、季節の花や飾り物、テレビ、本棚、大きなテーブルや椅子、ソファがゆったりと配置してあり、畳の部屋もあり、利用者は思い思いの場所で自由に過ごしている。壁面には、利用者の作品(習字、貼り絵、塗り絵、俳句)が飾ってあり、BGMが流れている。廊下には手すりを付けて、清潔、温度、湿度、換気に配慮し、利用者が安全に居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常日頃から利用者の変化を観察し、意向を聞き納得のいく場所を提供している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、たんすなど使い慣れた好みの家具、写真、手つくりの品など我が家に近い空間作りを行っている。	ベッド、テレビ、サイドテーブル、衣装タンス、小ケース、小机、鉢植えなど使い慣れたものを持ち込み、家族写真や手作りカレンダー誕生祝の色紙等を飾って、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施錠を行わず、危険な場所には貼り紙をしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームかじかの里

作成日: 平成 26 年 12 月 8 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	職員の力量の差が有り一人ひとりのステップアップが必要である。	内部研修により職員の実践力が向上する。	外部研修復伝は勿論のこと、内部研修計画に基づき充実を図る。	6ヶ月
2	35	全ての職員が応急手当や初期対応の訓練の継続が必要である。	すべての手の職員が応急手当や初期対応の研修により実践力の向上を図る。	内部研修計画により実施、継続する。 外部研修の復伝により自主研修を実施する。 外部から講師を招き指導を受ける。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。